

過労死ゼロ読書感想文②

「未和 NHK記者はなぜ過労死したのか」（岩波書店、尾崎孝史著、以下同書）を読んで

著者・尾崎孝史さん（以下、尾崎さん）は、二〇一七年一〇月五日の朝日新聞記事にて、NHK女性記者・佐戸未和さん（以下、未和さん）の死を知ります。

しかし、未和さんが亡くなったのは、二〇一三年七月二四日。約四年二か月以上も前のことです。

フリーランスの映像制作者として二五年間NHKで働いてきた尾崎さんは、四年以上の歳月が経ち、しかも、NHKではなく他社の報道によって知ることとなった「未和さんの死」に対して、「NHKは未和の死にけじめをつけていない。このままでは未和の死が風化し、葬り去られる」（同書Pivより）という二両親の思いに動かされ、遺族、友人、NHK関係者など109名への取材を進めていったのです。

以上に記された「はじめに」と題した前書きを読んで、「4年以上の歳月と他社報道」に、私も作務的な背景を感じました。

そして、「あとがき―同期記者のYさんへ」を読んで、NHKの隠蔽に驚きました。

Yさんは、「未和ちゃんとの思い出はいっぱいあるので、喜んで協力します」（同書P219より）と、父・守さんに話し、*やうじ*は、追悼文章の中でも、「私は今、後任の都庁担当として未和ちゃんが使っていた椅子に毎日座っている。この席で未和ちゃんがどんなことを考え、仕事に打ち込んだのか。ふとした瞬間に未和ちゃんを思い出す。あの明るい笑顔と快活なしゃべり。そして話をよく聞いてくれた未和ちゃんを忘れない」（同書P219より）と記しています。

個人的には取材協力だったYさんでした。が、Yさんの上司に、尾崎さんが取材に対して相談したところ、「組織として検討した結果、Yへの取材には応じられないことになりました。もちろん、Y本人には伝えていません」（同書P221より）と、取材を断れます。

二〇一九時間の時間外労働にて過労死し、二〇一四年五月に労災認定を受けていながらも、取材拒否で、何も隠すことなく、真摯に真実を伝えるのが、報道の役目ではないでしょうか。

「10 未和さん、さどちゃん、そして未和さんへ」（同書P197より）には、いかに、周りの人々から、未和さんが好かれていたのか、そのエピソードが書かれています。

このような素晴らしいジャーナリストの死を無駄にせず、マスコミの隠蔽体質と過労死となる職場環境の撲滅へと進むべきだと思います。